

浪江駅西側地区共創会議 説明会資料

2025.4.23

浪江町市街地整備課

1. エフレイの立地を踏まえたまちづくり

1) 福島国際研究教育機構（エフレイ）

F-REI(エフレイ)とは

- ◆ 福島国際研究教育機構(略称:「F-REI: エフレイ」)は、福島復興再生特別措置法に基づき、令和5年4月1日に設立された特殊法人です。
- ◆ 福島をはじめ東北の復興を実現するための夢や希望となるものとともに、我が国の科学技術力・産業競争力の強化を牽引し、経済成長や国民生活の向上に貢献する、世界に冠たる「創造的復興の中核拠点」を目指しています。

出典：<https://www.f-rei.go.jp/about/> より抜粋

研究開発

- 福島での研究開発に優位性がある次のページの5分野で、被災地や世界の課題解決に資する国内外に誇れる研究開発を推進

産業化

- 産学連携体制の構築
- 実証フィールドの積極的な活用
- 戦略的な知的財産マネジメント

人材育成

- 大学院生等
 - 地域の未来を担う若者世代
 - 企業の専門人材等
- に対する人材育成

司令塔

- 既存施設等に横串を刺す協議会
- 研究の加速や総合調整のため、一部既存施設・既存予算を機構へ統合・集約

1. エフレイの立地を踏まえたまちづくり

1) 福島国際研究教育機構（エフレイ）

エフレイの5つの研究分野

1 ロボット

複合災害を経験した福島で、廃炉や災害現場等の過酷環境で機能を発揮するロボット・ドローンの研究開発を行います。

2 農林水産業

震災により大規模な休耕地や山林を有する地域特性を考慮し、新しい技術シーズの活用など、従来にはない次世代農林水産業に挑戦します。

3 エネルギー

既存の水素関連設備等を活用し、カーボンニュートラルを地域で実現します。併せて先駆的なスマートコミュニティの実現に寄与します。

4 放射線科学・創薬医療、放射線の産業利用

福島の複合災害からの創造的復興の研究基盤として、放射線科学（核物理学、放射化学、核医学など）を据え、放射線やRIの利活用の検討を行います。

5 原子力災害に関するデータや知見の集積・発信

福島の複合災害から得られる様々なデータを蓄積し、知見を伝承することで、来るべき今後の災害への対策に資するとともに、まちづくりに貢献します。

1. エフレイの立地を踏まえたまちづくり

1) 福島国際研究教育機構（エフレイ）

エフレイの立地予定地



←立地予定地 航空写真

〔国土地理院撮影の空中写真 (2022.5撮影) を加工して作成〕

本敷地の都市計画事業における都市施設（研究施設）の面積は約 16.9ha

出典：F-REIの事業紹介（R7.4 エフレイ）

◆ 「ふれあい福祉センター」、「ふれあい交流センター」の一部を借用。

1. エフレイの立地を踏まえたまちづくり

1) 福島国際研究教育機構（エフレイ）

<ゾーニング図>

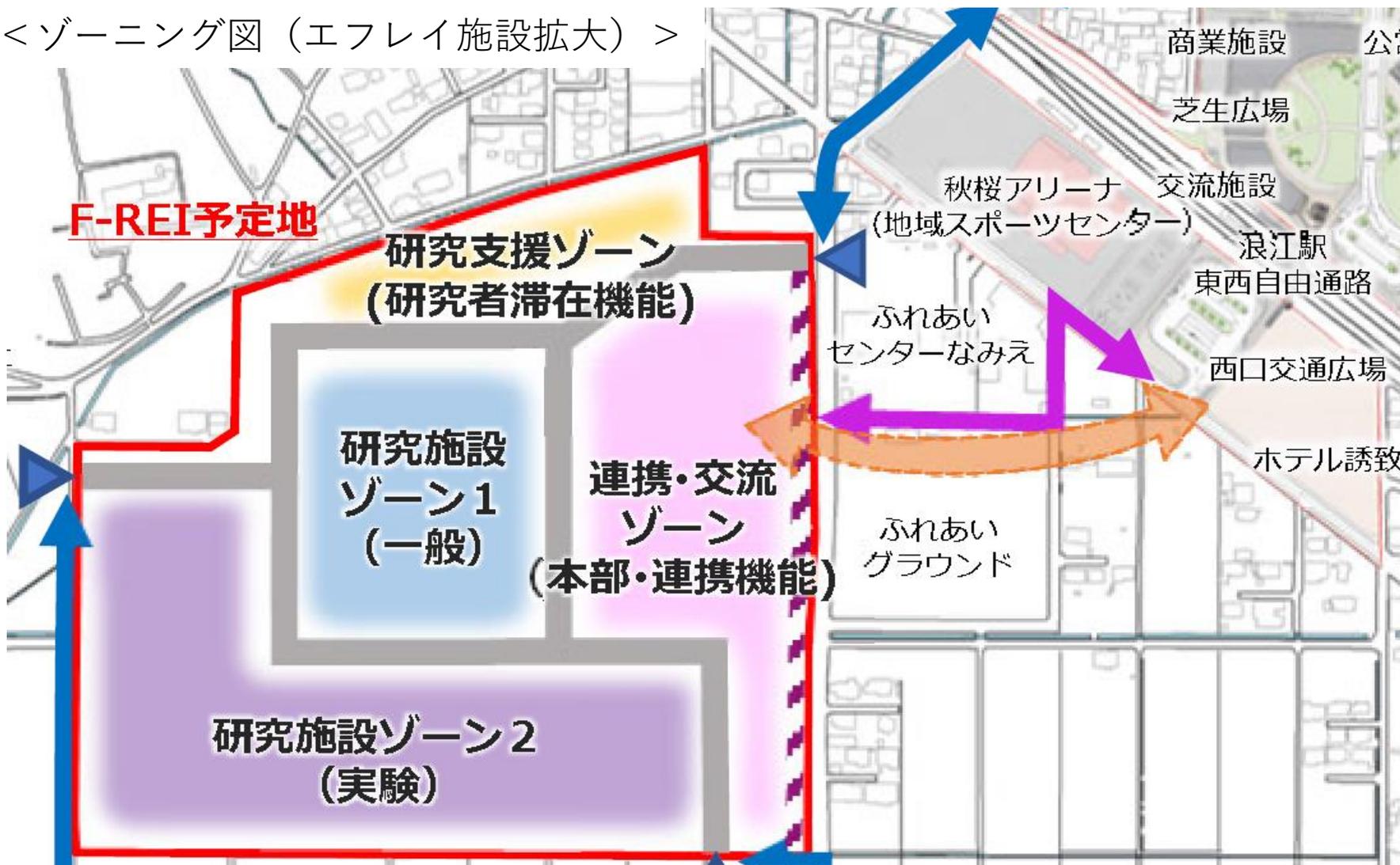


出典：福島国際研究教育機構（F-REI）の施設基本計画（R6.3復興庁）

1. エフレイの立地を踏まえたまちづくり

1) 福島国際研究教育機構（エフレイ）

<ゾーニング図（エフレイ施設拡大）>



1. エフレイの立地を踏まえたまちづくり

1) 福島国際研究教育機構（エフレイ）

<各ゾーンの主な施設>

ゾーン名	主な施設	
連携・交流ゾーン	本部施設	管理・運営を担うための施設
	本部機能支援施設	F-REI関係者の研究活動・職務を支援するとともに、F-REIの活動や研究成果を広報・展示するための施設
	図書・情報施設	研究者等が文献調査を行うほか、研究データの保管等のためのサーバーを設置するための施設
	講堂・ホール施設	研究成果の発表や人材育成のための講義、見学者等の来訪者への情報発信等を行うための施設
研究支援ゾーン	短期宿泊施設	連携大学院制度による大学院生や共同研究等のためのポストドクター等が一時的に滞在するための施設
研究施設ゾーン1	研究実験施設	F-REI研究者や共同研究者等が日常的に滞在し、研究活動を行うための施設
研究施設ゾーン2	固有実験施設	F-REI研究者や共同研究者等が高度な研究活動を行うための施設
—	その他	中央監視施設や廃棄物処理施設、受変電施設等を想定

1. エフレイの立地を踏まえたまちづくり

1) 福島国際研究教育機構 (エフレイ)

< (仮称) 中央広場のイメージ >

連携・交流ゾーンに整備する建物の中央に
(仮称)中央広場を整備

(仮称)中央広場を中心に、
地域の皆様も利用できる
カフェ、食堂、日用品を購入できる店舗、託児所
などを配置

イベントスペースとしても
活用できる場所となることを想定

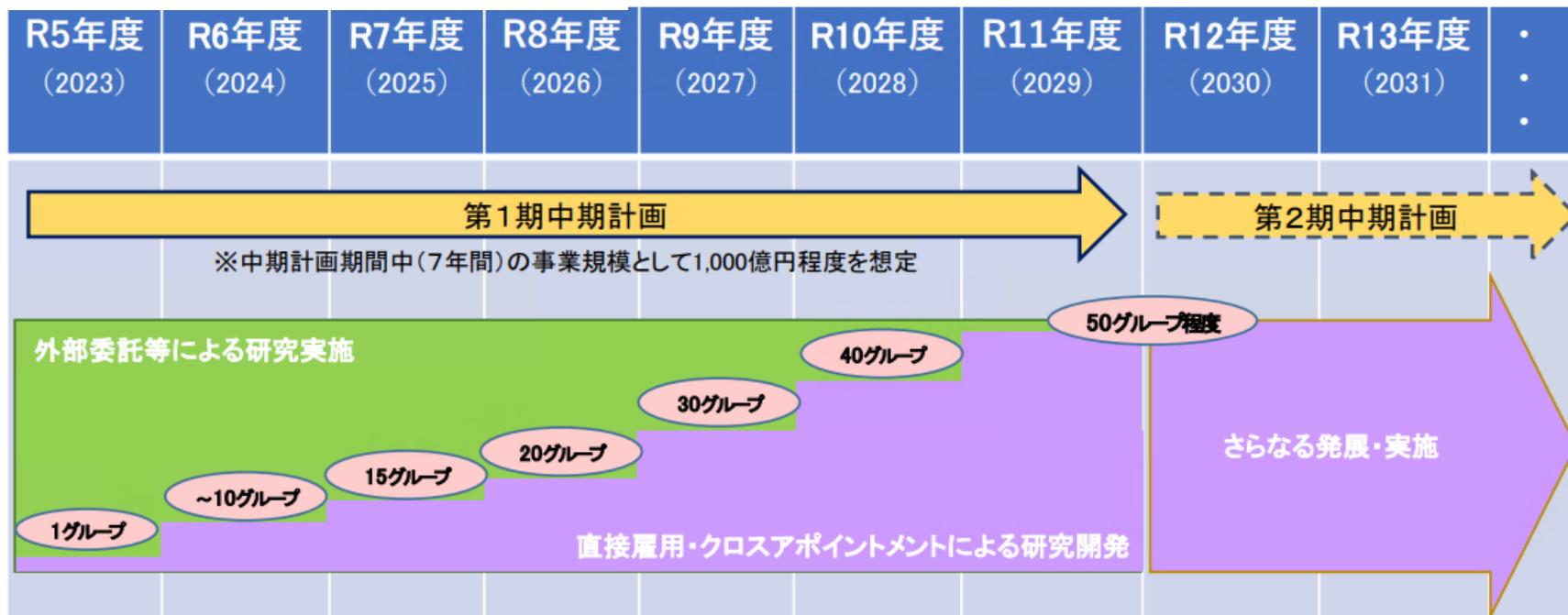


※イメージパースであり、今後の設計で変更となる可能性があります

1. エフレイの立地を踏まえたまちづくり

1) 福島国際研究教育機構（エフレイ）

< 研究開発の進捗状況の見通し >



【今後の取組】

- ・令和6年度以降は、外部委託等による研究開発について、その進捗状況及び成果を踏まえて統廃合しつつ、段階的に直営の研究グループによる研究体制に移行予定。
- ・クロスアポイントメントを積極的に活用しつつ、国内外の優秀な研究者をユニットリーダーとして選考又は公募により採用する方針。(現行の委託研究とは別テーマの研究も開始予定。)

1. エフレイの立地を踏まえたまちづくり

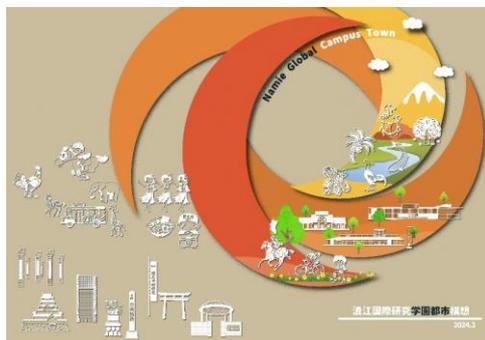
2) 浪江国際研究学園都市構想

構想の位置づけ

町の最上位計画である浪江町復興計画【第三次】やその関連計画を踏まえながら、F-REIの本町への立地に伴う状況変化に対応するため、「浪江国際研究学園都市構想」を策定

なお、浪江町復興計画【第三次】の改定時に、施策などの整合を図ります。

- 計画期間：令和6年度～令和15年度(10年間)
- 対象範囲：浪江国際研究学園都市の範囲は浪江町全域とします



詳しくは、浪江国際研究学園都市構想（浪江町HP）を参照
<https://www.town.namie.fukushima.jp/soshiki/34/35478.html>



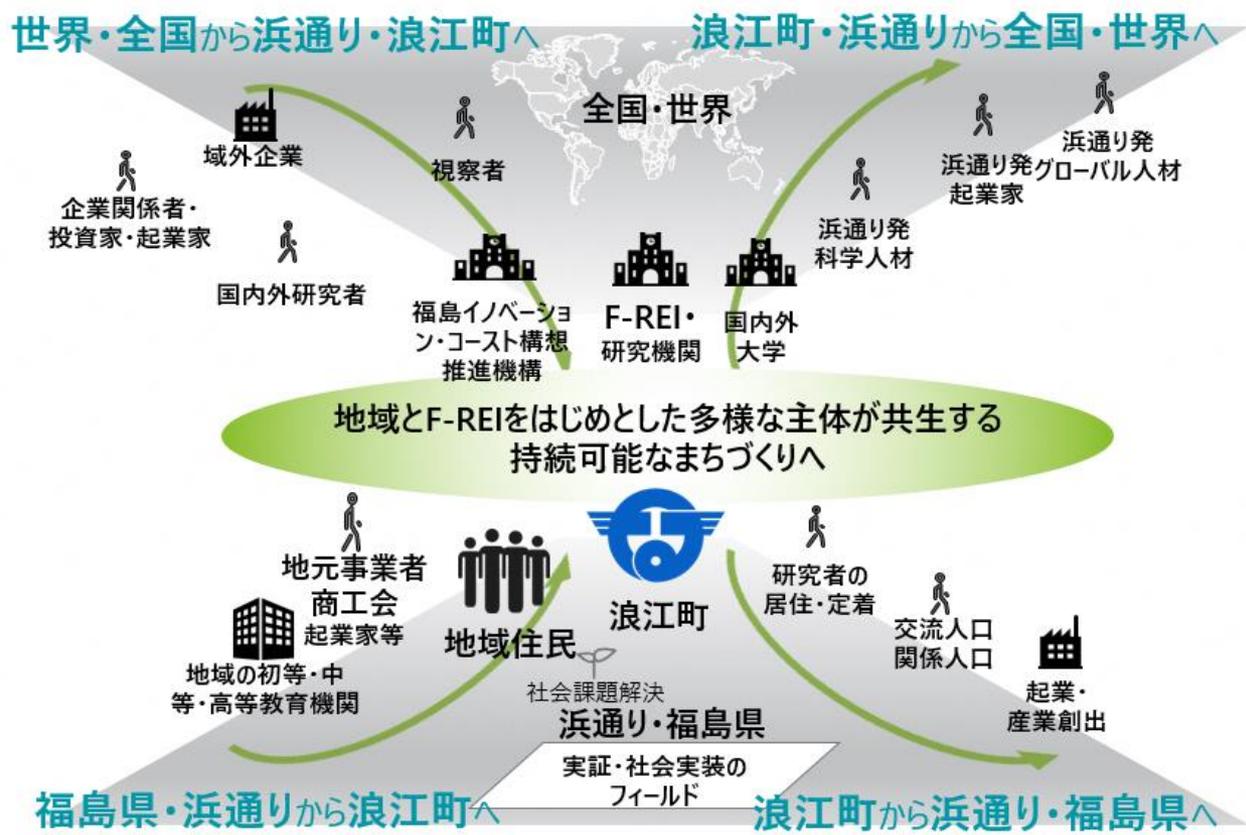
1. エフレイの立地を踏まえたまちづくり

2) 浪江国際研究学園都市構想

本構想のビジョン

地域とF-REIをはじめとした多様な主体(※)が共生する持続可能なまちづくりの実現

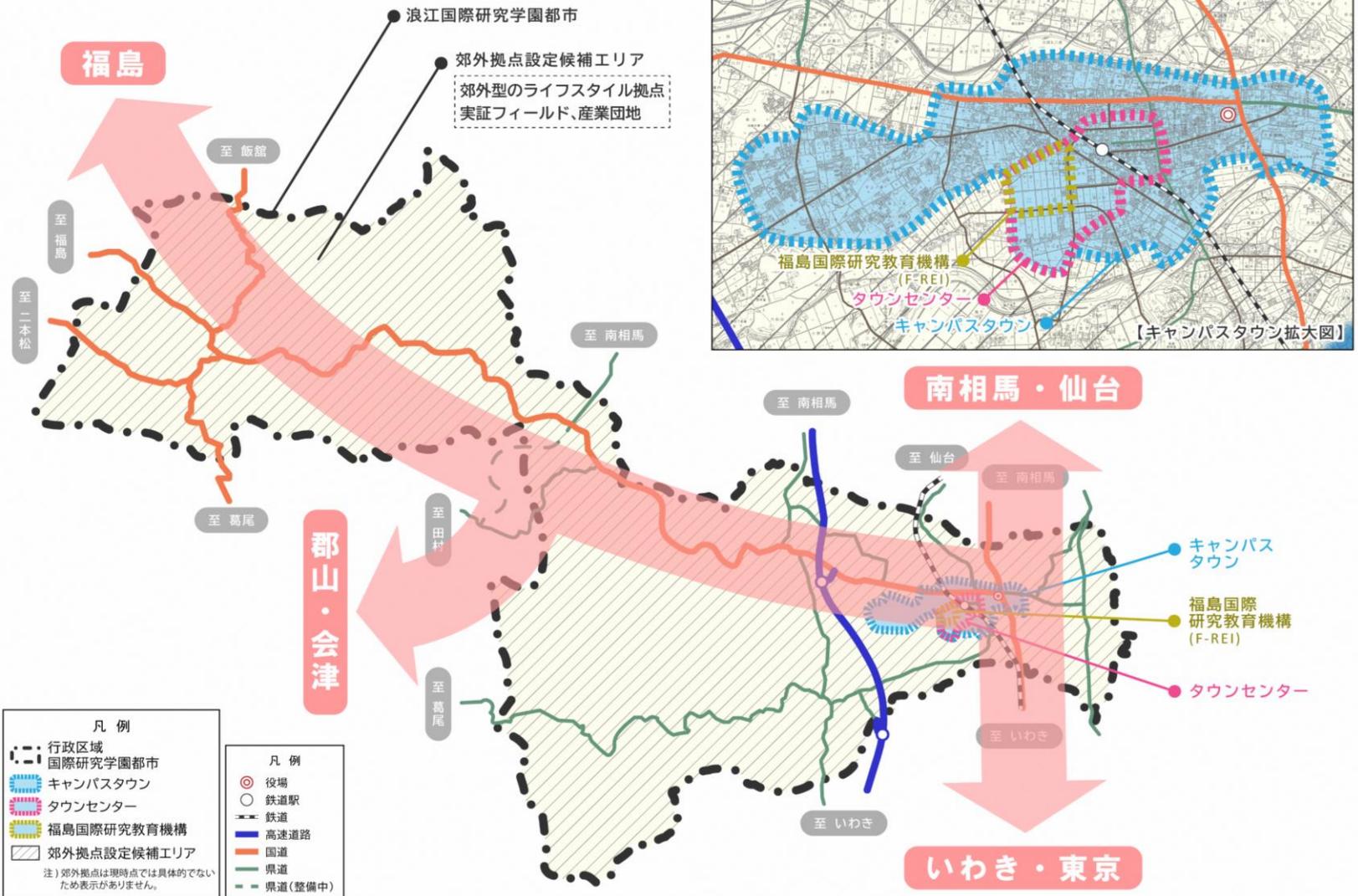
※地域の住民や事業者、復興に関わる団体、様々な研究機関など、浪江町に関わる個人、法人、団体を広く包含



1. エフレイの立地を踏まえたまちづくり

2) 浪江国際研究学園都市構想

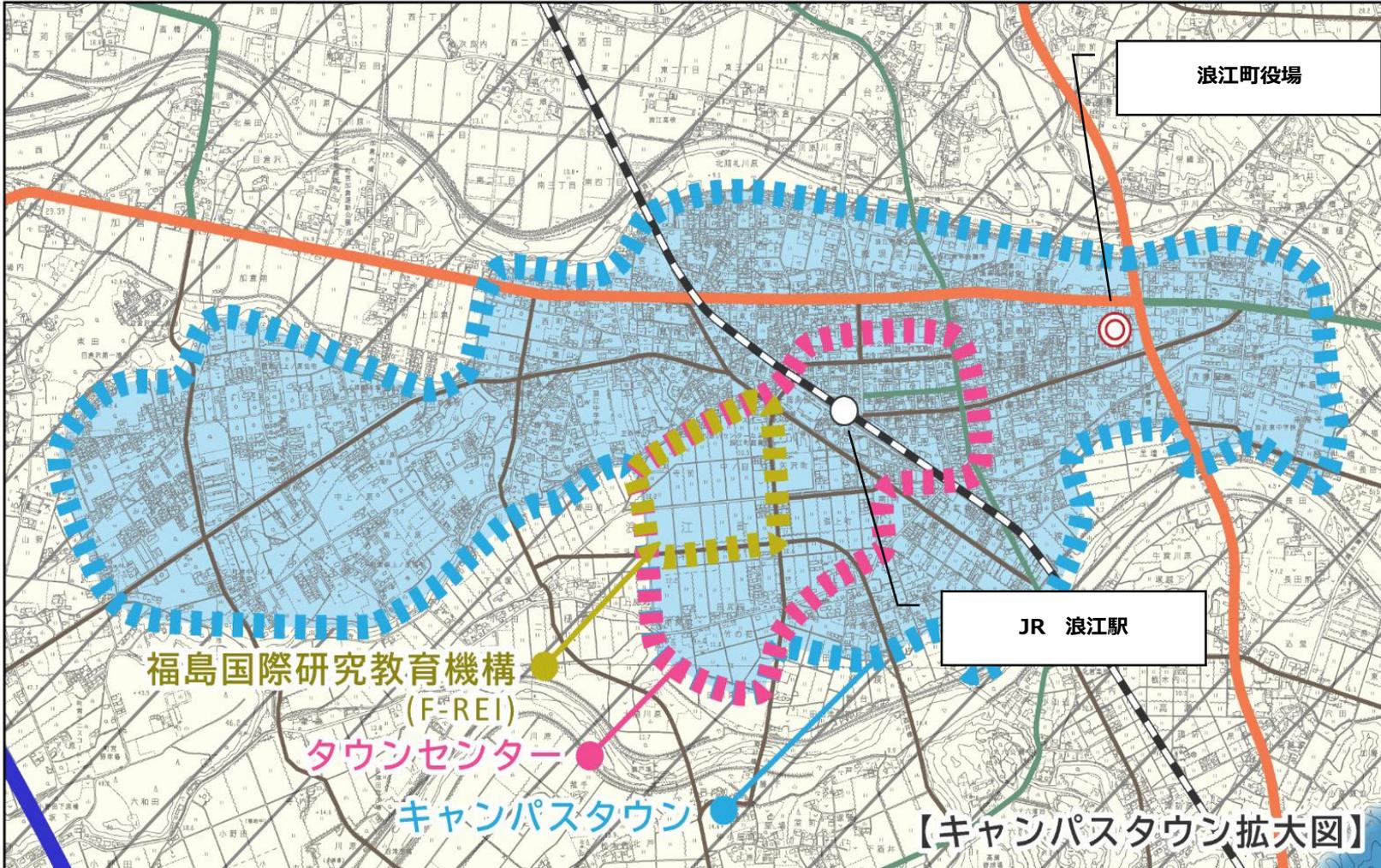
浪江国際研究学園都市形成イメージ図



1. エフレイの立地を踏まえたまちづくり

2) 浪江国際研究学園都市構想

<キャンパスタウンとタウンセンター>



【キャンパスタウン拡大図】

1. エフレイの立地を踏まえたまちづくり

2) 浪江国際研究学園都市構想

<キャンパスタウンとタウンセンター>

キャンパスタウン（おおむね浪江町都市計画の用途地域の範囲）

- 多様な教育機関や人材育成施設の立地を誘導し、地域とF-REIをはじめとした多様な主体の共生の場となる学園都市を形成
- 主に民間による土地活用を誘導

タウンセンター（中心市街地先導整備エリアとF-REI敷地を含むその周辺）

- 主に公民連携により都市的サービス（芸術、文化、スポーツ、飲食、娯楽など）や生活利便施設等を誘導
- 産学官民連携のための施設や産業化に必要な施設などを適切に配置
- 浪江駅周辺とF-REI本施設とが相乗効果を生み出すよう、F-REI本施設が周辺地域に溶け込み、一体的となった街並みと、居心地よく歩きたくなるまちなかを形成し、まちを訪れることが目的となり、何度も訪れたいくなるような、魅力的なまちづくりを推進
- 浪江駅近接の立地条件を活かして、公共による先導的整備と秩序ある土地活用誘導を推進
- 浪江駅周辺においては、道路、宅地や広場などを一体的に利活用できる仕組みを構築し、民間事業者などによるイベントや様々な活動を誘導し、にぎわいを創出 等

1. エフレイの立地を踏まえたまちづくり

3) 浪江駅西側地区公民連携まちづくりアイデア提案

- 浪江駅西側地区における公民連携まちづくり事業の具現化に向けて、当町と一緒に共創交流拠点形成と地域課題・社会課題解決に取り組んでいただける事業者等からアイデア提案を募集
- 公民連携まちづくりの主体として参画する意思を有する「地域経営主体」と、若い世代等の育成の場としての「アイデアコンペ」の2つの区分で提案を募集
- 地域経営主体へ10件、アイデアコンペへ4件の提案がありました。

対象区域	浪江駅西側地区公民連携まちづくりエリア	
募集期間	令和6年7月31日～10月11日	
実施体制	主催：浪江町 / 協力：公益社団法人福島相双復興推進機構	
募集区分	地域経営主体	アイデアコンペ
対象者	事業者、団体、個人、町民他	学生、社会人、町民他
応募件数	10件	4件
提案概要	<ul style="list-style-type: none"> 教育に関する提案が3件 食や農業に関する提案が2件 コミュニティ形成に関する提案が3件 産業振興に関する提案が2件 	<ul style="list-style-type: none"> 食に関する提案が2件 防災、文化芸術に関する提案各1件

1. エフレイの立地を踏まえたまちづくり

3) 浪江駅西側地区公民連携まちづくりアイデア提案

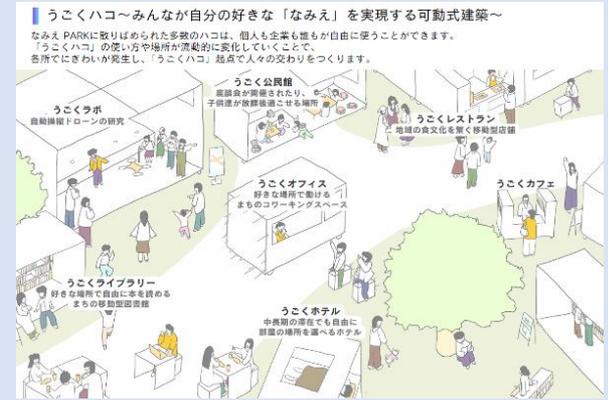
< 応募数 >

地域経営主体 10件 / アイデアコンペ 4件

地域経営主体

- 提案を分類すると、教育に関する提案が3件、コミュニティ形成に関する提案が3件、食や農業に関する提案が2件、産業振興に関する提案が2件でした。（1件の提案でも複数テーマに計上している提案あり）
- 11/5公民連携セミナーにおいて、提案発表を実施し、町民や事業者の浪江駅西側地区における公民連携事業の可能性やイメージを共有しました。

< 提案例 >



アイデアコンペ

- 提案を分類すると、食に関する提案が2件の他、防災、文化芸術に関する提案がありました。
- 10/22に審査会を実施し、優秀な提案を選定しました。
- 優秀な提案については、11/5公民連携セミナー（第2回）において表彰と提案発表を実施しました。

< 提案例 >

古い建物を移築して横丁を作る。

- (例) ※あくまでイメージであり、許可を得ているわけではありません。
- 大堀地区などにある古民家。
 - 現在の浪江駅舎の一部
 - 旧サンブラザ建物の一部
 - 納屋や工場跡など昭和レトロな建物

⇒ **サステナブル**な街づくりを実現

1. エフレイの立地を踏まえたまちづくり

3) 浪江駅西側地区公民連携まちづくりアイデア提案

< 提案一覧：地域経営主体 >

発表辞退

(敬称略)

番号	提案者名	提案概要	キーワード
主01	株式会社SAWATA	健康増進プログラム提供施設の整備	健康 食
主02	大内 徹	養液供給を自動化したスマート農業の社会実装	農業
主03	渡邊 魁社、川村 航大	スモールモビリティ（自転車やキックボード）のレンタル整備及びモビリティスポットの交流スペース化	スモールモビリティ 地域コミュニティ
主04	株式会社アバンアソシエイツ (鹿島グループ)	エフレイを含む浪江駅西側地域全体を一体とした段階的なインフラ・環境づくり、サービス施設の整備等	公園 防災
主05	東邦レオ株式会社	移動や移築が可能な仮設建築を中心とした新しいマチの形「うごくマチ なみえ」の整備	仮設建築 メタバース 脱炭素
主06	會澤高圧コンクリート株式会社	データセンターを核にした持続可能なまちづくり	データセンター 脱炭素
主07	①一般社団法人 東北ソーシャルデザイン研究所 ②株式会社 マイファーム ③クローバーグループ	①中間支援的街づくり会社の設立による共創の促進 ②都市を耕し街に食と農の繋がり創出 ③農福連携によるまちづくりプラットフォームの創造	農業 教育 福祉
主08	株式会社関・空間設計 株式会社都市設計	融合型（エフレイ×浪江町）体験拠点及びコミュニティを利用した学びの場（まちづくり人材の育成）の整備 「融合×学び×自走」の流れ創出	教育
主09	株式会社いのちとぶんか社	「コミュニティFM局」が提供する「情報共有の場」と「興味を持った人が集う拠点」の創出	コミュニティFM 情報発信
主10	平井貞義（株式会社NTTファシリティーズ）	浪江町の地域活性化の起点となるイノベーション・ハブ事業（スクール、オープンイノベーション、レジデンシャル・カレッジ等）の整備	教育 スタートアップ 支援
主11	パナソニックホームズ株式会社 パナソニック株式会社エレクトリックワークス社	従来型のインフラ発想ではなく、くらし発想から設計・インフラ構築街づくり協議会を新設することにより、街とくらしの具体的なあるべき姿、課題を協議の上 土地利用計画を決定	地域協議会多文化

1. エフレイの立地を踏まえたまちづくり

3) 浪江駅西側地区公民連携まちづくりアイデア提案

<提案一覧：アイデアコンペ>

(敬称略)

番号	提案者名	提案概要	キーワード
コ01	本多 恒	行政と民間の複合施設、インクルーシブ要素を加味した広場、エフレイとの連携(水素、ロボット、防災)した物流施設の誘致	複合施設 防災 物流
コ02	吉田 佳夫	繁華街/レクリエーション施設/食肉加工場等の整備	食 レクリエーション施設
コ03	綱木 義久	古い建物を移築して飲食関連店舗の整備	古民家活用 食
コ04	佐藤 武光	芸術、文化、娯楽関連施設の整備 作品関係者と地域住民の交流	芸術 文化 娯楽

特賞

(公社) 福島相双復興推進機構奨励賞

1. エフレイの立地を踏まえたまちづくり

3) 浪江駅西側地区公民連携まちづくりアイデア提案

- 町では、令和6年11月5日に開催した「公民連携セミナー（第2回）」において、アイデア提案発表会を実施しました。
- 発表会では、提案事業者が住民等に向けてアイデアを発表しました。



浪江町ホームページ
公民連携セミナー（第2回）を開催しました



youtubeなみえチャンネル
公民連携セミナー
アイデア提案発表会

1. エフレイの立地を踏まえたまちづくり

3) 浪江駅西側地区公民連携まちづくりアイデア提案

- 提案に共通する考えや要素を抽出し、浪江駅西側地区整備計画策定にあたって、具体的な導入機能や施設を検討する際の参考としました。

- 浪江駅西側に必要な要素

居住環境

エフレイの研究者が就業地のみではなく、居住地として選んでもらうために職住近接という立地を活かし、キャンパスタウンに手軽・気軽に住んでもらえる居住環境が必要。
居住のイメージをもってもらえるよう、生活環境の利便性向上のための整備や、浪江町の施策を活かしたコンセプト住宅の展示等も考えられる。

全町的な取り組みの整合

脱炭素（水素エネルギー）や防災等の町全体の取組を浪江駅西側エリアにも取り入れる環境が必要。

交通

近隣住民、来町者等の町内周遊や、エフレイ関係の新たな居住者による遠方の移動手段等、幅広い移動に関するニーズを充足することが必要。

柔軟な整備

変化する課題やニーズに合わせられ、都市機能の更新がしやすいよう柔軟な利用ができる整備すること等が考えられる。

実証・産業化

地元課題解決を目的とした事業及び研究開発成果の産業化、社会実装化を目的とした実証フィールドや産業化に向けた事業展開ができる環境が必要。地元課題は農業や地元伝統文化事業等の地元住民による課題が考えられる。

学び・交流

多様な主体を支える人材の育成や、エフレイ関係者と地元住民の互いの交流（学び/文化等）を通じた人材育成・伝統継承等の環境が必要。



1. エフレイの立地を踏まえたまちづくり

4) 1/25公民連携セミナー

<開催概要>

- ①日 時 令和7年1月25日（土） 1415～1630
- ②会 場 秋桜アリーナ会議室
- ③参加者 合計37名（うち子ども5名）
- ④次 第
 - 1. 開会あいさつ 浪江町役場副町長 成井 祥
 - 2. 浪江駅西側地区整備計画（案）の概要説明
 - 3. 講演 「子どもも大人も自慢できるまちのコンセプトの作り方」
講師 (株)新産業文化創出研究所 代表取締役 所長 廣常 啓一氏
 - 4. みんなで話そう！浪江駅西側地区のまちづくり（ワークショップ）
 - 5. 全体共有・確認ワーク
 - 6. 事務連絡 浪江駅西側地区共創会議の設置について
 - 7. 閉会



1. エフレイの立地を踏まえたまちづくり

4) 1/25公民連携セミナー

<ワークショップでの主な意見>

①主な意見の分類

- 学習・教育関連：28件
- 商業・飲食施設：26件
- 娯楽・レジャー施設：24件
- 交流・文化関連：20件
- 研究・技術関連：15件
- 自然・環境関連：12件
- 生き物関連：8件
- アクセス・モビリティ：8件
- 医療・福祉関連：4件

②いいね数の多かった意見

- ✓ 世界の食が集まるレストラン（5いいね）
- ✓ 安心して遊べる大きな隠れんぼ施設（3いいね）
- ✓ 10代が楽しめる施設（3いいね）
- ✓ 教育特区のための学園誘致（3いいね）
- ✓ 動物カフェ（2いいね）

③参加者区分による分析

<子どもの意見の特徴>

- ✓ 娯楽・レジャー施設への関心が高い（映画館、水族館、遊園地など）
- ✓ 国際的な食文化への興味が強い
- ✓ 学びと遊びの融合を求める意見が目立つ
- ✓ 生き物との触れ合いに関する提案が複数（動物カフェなど）

<大人の意見の特徴>

- ✓ 子どもの娯楽、居場所づくりに関する意見が多い
- ✓ エフレイとの連携やシビックプライド（世界一、日本一）に関する意見が多数
- ✓ 教育特区や国際化に関する提案が特徴的
- ✓ 生き物を介した地域コミュニティ形成の視点（ドッグランなど）

1. エフレイの立地を踏まえたまちづくり

5) 浪江駅西側地区整備計画

背景

- 浪江駅西側地区は、浪江駅周辺整備事業とエフレイ施設の整備と時期を合わせて一体的に整備し、町内で不足する機能を補完することで、各事業・施設が相乗効果を発揮し、タウンセンターの機能の最大化が図られます。
- 持続可能な国際研究学園都市を実現するため、町による基盤整備と民間による施設整備を適切に組み合わせ、公民連携でまちづくりを進めることが重要です。
- このような背景のもと、町が先導的に基盤整備を行い、民間の投資環境を整え、民間のノウハウを活かした魅力的な都市機能の導入を促進する公民連携のまちづくりについて、包括的な道筋を示すため、本計画を策定します。

詳しくは、浪江駅西側地区整備計画（浪江町HP）を参照

<https://www.town.namie.fukushima.jp/soshiki/34/38863.html>

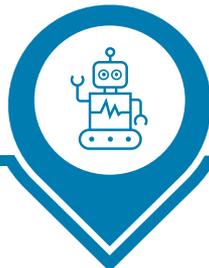


1. エフレイの立地を踏まえたまちづくり

5) 浪江駅西側地区整備計画

大方針

- 駅周辺整備とエフレイ施設整備の連携と相乗効果を通じてエリア全体の価値を向上。
- 東西自由通路を通じて、駅東西エリアと中心市街地間の回遊を促進。
- 町が基盤整備を先導し、その後の施設整備や運営は民間が担当。
- 中長期的な整備に伴う利用者数や顔ぶれの変化を見据え、地区の成長に合わせて柔軟に更新・発展



相互交流

住民・研究者間、世代間、文化間といった多様な交流が行われる場を整備
浪江町の生活・多様な歴史・文化に触れることで町の賑わいづくりを促進

生活環境

医療福祉といった生活に必要なサービスだけでなく、スポーツ、芸術、文化、ファッション、美容、健康などの多様なサービスや体験を提供

イノベーション

新たな産業団地を整備し、情報通信業や研究開発機関、サービス業など、都市型産業の誘致を推進。地域課題解決ビジネスの促進も志向。

交通基盤

研究者、事業者、観光客等が快適に移動できる多様なモビリティを誘導することで、まち全体をつなぐ機能の強化。

環境保全

町のカーボンニュートラルの目標達成に向け、再生可能エネルギーの積極的活用を推進。
エリア周囲の豊かな自然、田園景観も活用

個別方針

1. エフレイの立地を踏まえたまちづくり

5) 浪江駅西側地区整備計画 (現段階の案であり、引き続き、精査していきます。)

周辺に存する既存の店舗や住宅を基盤に、日々の暮らしの中で町民と研究者等が自然に交流し、共生する環境を提供し、日常を通じて浪江町の生活文化が息づき、食文化や遊びなど身近な生活の中で多文化相互理解が図られ、新たな浪江文化が生まれる場を目指します。

<機能等>
 地域密着型、生活密着型産業（店舗、サービス業）／多様なサービス提供機能 等

産業団地を整備し、情報通信業や研究開発機関、サービス業など、都市型産業や、地域課題・社会課題解決に取り組む新産業、地場産業など、多様な事業の場となります。

<機能等>
 産業団地／多様な事業所 等

「交流と学びによる共生・共創の場」、「利便性と安心感のある生活環境の提供」、「交通基盤の整備」を担い、併せて、「イノベーションの場」の一部を担うゾーン

ゾーン①

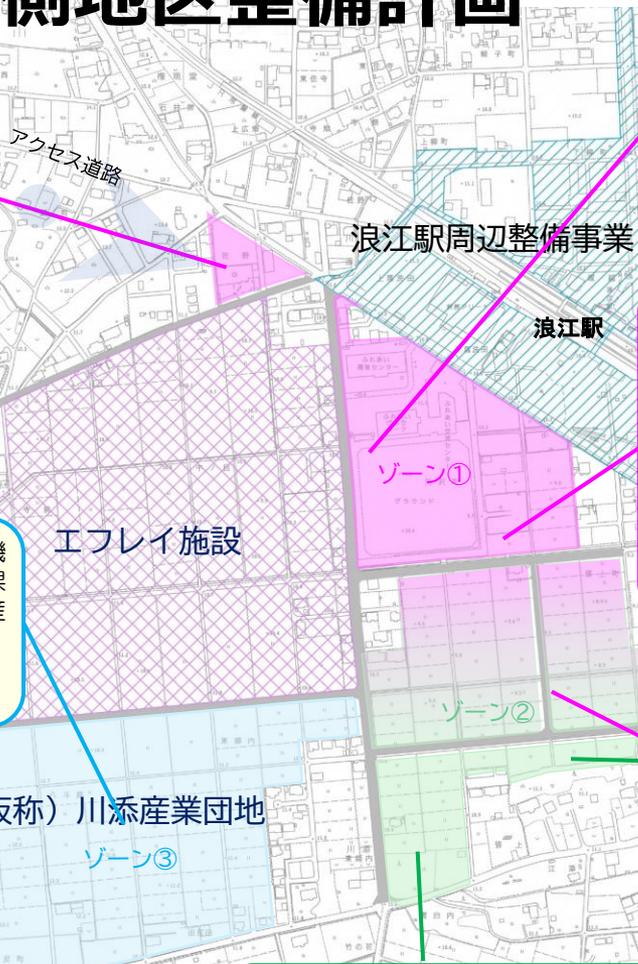
「交流と学びによる共生・共創の場」、「利便性と安心感のある生活環境の提供」、「イノベーションの場」、「環境への配慮と豊かな自然の活用」を担うゾーン。

ゾーン②

「イノベーションの場」を担うゾーン

ゾーン③

既定済都市施設（別途事業）



既存の公共施設、エフレイ施設の存在を活かし、交流と学びによる共生・共創の場を生み出します。

日常的に自然に交流し、まちの活動に誰もが参加できる環境を築き、子どもから大人まで共に学び、育つ、地域に根ざした未来の学びの場を目指します。

<機能等>
 多世代・多文化交流の場／人材育成や学習、共創の場／地域の伝統文化等の情報発信や多様な文化の相互理解の場 等

浪江駅西側エリアは、エフレイへのアクセス経路（エフレイ回廊）となる位置にあり、エフレイの供用開始に合わせて、最優先で整備を進める必要があります。

ゾーン北側の駅前付近は、初めて浪江駅西側を訪れた人への第一印象を決定する重要なゾーンであり、玄関口としてふさわしい広場などを整備します。

健康、医療や福祉機能、まちに足りない多様なサービス等を誘導するとともに、多様なモビリティを誘導し、まち全体をつなぐ機能の強化を図ります。

<機能等>
 広場／健康、医療／福祉／多様なサービス提供機能／スモールモビリティ等のポート／EV充電ステーション 等

様々な学び、余暇の充実、スポーツ、芸術、文化、ファッション、美容、健康などのサービスを提供する事業者や、身近な地域課題解決等に向けた実証等を行う事業者の受け皿となり、共創の具現化が更なる共創に結びつくような共創のフィールドを目指します。

<機能等>
 学びや体験の場／余暇の充実に資する機能／多様なサービス提供機能／事業の場／実証機能 等

現況の森林などを活かした公園、緑地とするとともに、生き物とふれあえる環境づくりを行います。また、住まう機能とサービス機能が融合したケア付き住宅、サービスアパートメントなどを誘導し、周辺の住宅地と調和したまちづくりを進めます。

また、必要に応じて、再生可能エネルギー活用や省エネ技術導入等のインフラを配置します。

<機能等>
 公園／緑地／生き物とふれあう機能／住まう機能とサービス機能の融合／再生エネルギー関係の機能 等

1. エフレイの立地を踏まえたまちづくり

5) 浪江駅西側地区整備計画

< 工程計画 >

年度		R7	R8	R9	R10	R11	R12~
町 施 行	計画設計	→					
	都市計画等手続き	→	都市施設の決定、用途地域の変更等を想定				
	用地取得		→				
	基盤整備		→				
	公民連携まちづくり事業者募集、企業誘致等	→	→				
民 間 施 行	施設建築、整備				→		
	施設運営					→	

※この工程は、現段階の想定であり、整備や運営に係る財源確保等の状況に応じて随時見直しを図っていきます。

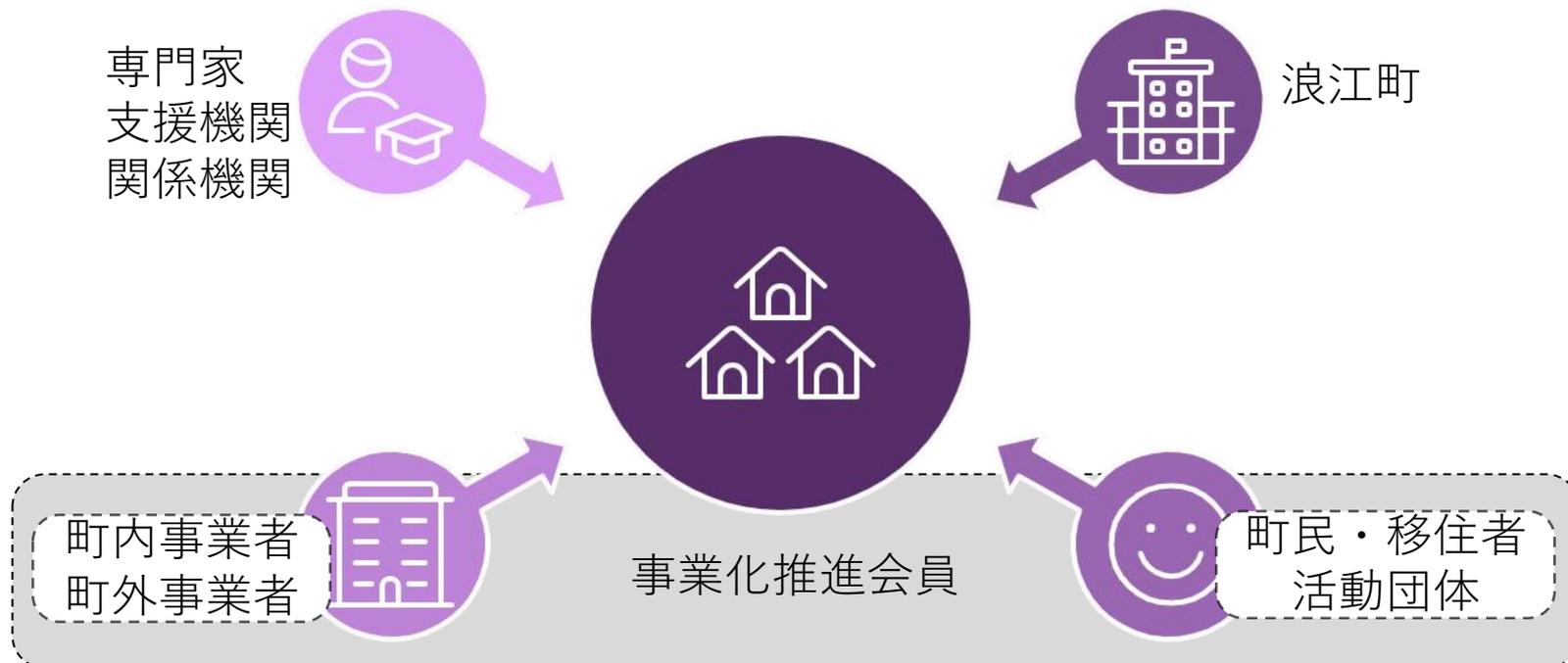
※事業スキームは、町事業で基盤整備を行い、公募し選定された事業者が、自らの資金により建物や施設を整備することを想定しています。

2. 浪江駅西側地区共創会議

1) 共創会議の概要

- 浪江駅西側地区のまちづくりに関与、貢献したい意思があれば誰でも参加でき、随時入退会可能な気軽な玄関口となる「浪江駅西側地区共創会議」を設置。
- 町内外の多様な個人・事業者・団体が互いに知り合える場を提供。同志が集い、共創することで、より実現性の高いまちづくり提案に繋がることを期待。
- 町は、本会を通じて、当地区や復興事業の状況等の最新の情報発信するとともに、浪江駅西側地区の公募条件や基盤整備設計等に関して会員から意見を聴取して反映。

浪江駅西側地区共創会議



2. 浪江駅西側地区共創会議

1) 共創会議の概要

会議の
ねらい

令和9年度以降の正式な事業公募に向けて、浪江駅西側地区における公民連携まちづくりに参画してくれるパートナーを増やし、共創会議のメンバー全体で、浪江駅西側地区における民間事業の実現可能性を高める活動を行う

会議の役割

駅周辺の
動きを捉える

浪江駅周辺整備事業やF-REI整備と連携しながら浪江駅西側地区を整備し、各事業・施設の相乗効果を高めていく上で、共創会議メンバーの皆様が整備検討状況の最新の動きを捉えられるための情報を提供

地域理解を深める
知見を得る

令和9年以降の正式な事業公募に向けて、専門家講演、先進事例紹介、現地視察等により地域理解や事業計画策定の参考となる知見を提供し、当地区で期待される提案の方向性や提案充実に資するヒントを提供

町内外の
仲間と知り合う

浪江駅西側地区の公民連携まちづくりに対して、同じ志を持つ、町内外の多様な個人・企業・団体と、互いに知り合える場を提供

事業者公募に向けた
サウンディング

令和9年以降の正式な事業公募に向けて、「こういった条件であれば事業参画しやすい」等、事業参画しやすい環境整備のための、町との意見交換の場を提供

2. 浪江駅西側地区共創会議

1) 共創会議の概要

- エフレイの立地や、浪江駅周辺の開発を機に、浪江町に関わる人/企業/団体が多様化・多層化することが想定される。
- このため、これらの多様な人/企業 /団体が互いを知り、理解を深める場や機会となる「有機的で緩やかに連携する共創プラットフォーム」を形成し、新たな出会いや事業の創出を促進。

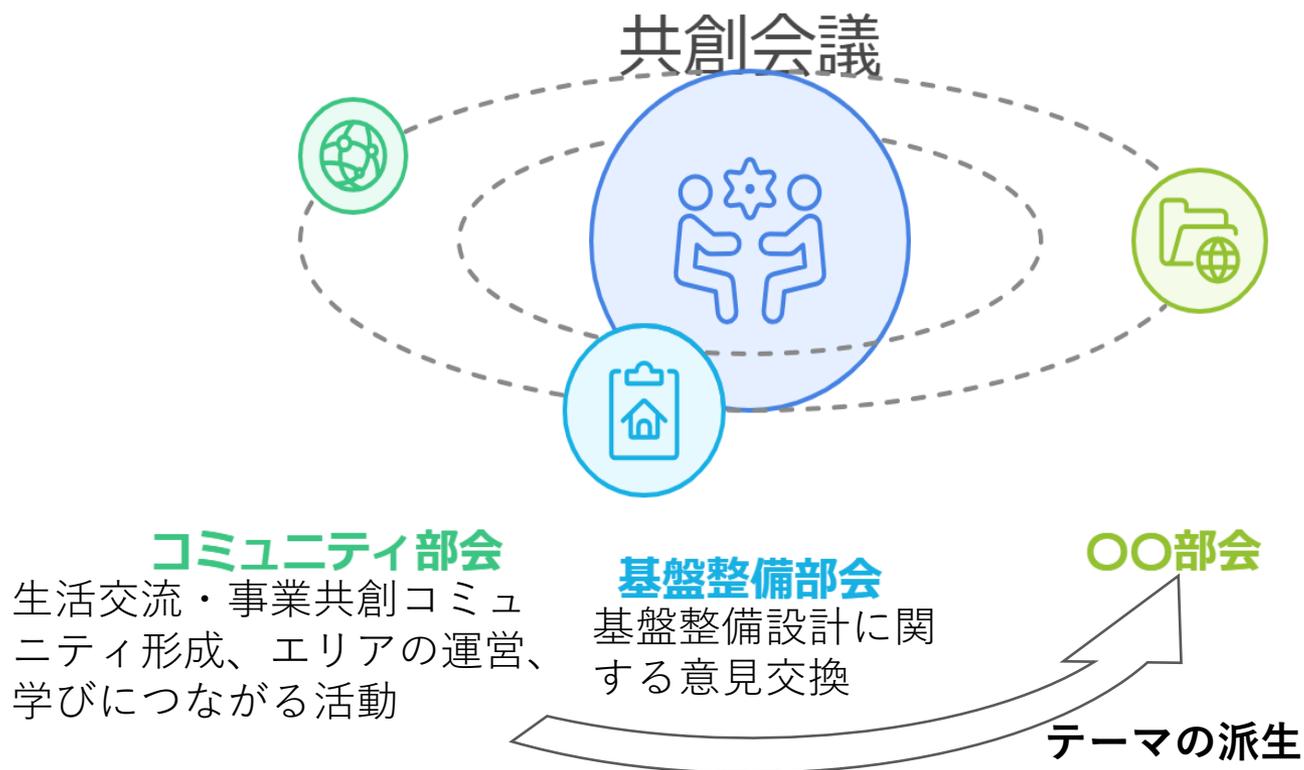
有機的で緩やかに連携する共創プラットフォームを形成



2. 浪江駅西側地区共創会議

1) 共創会議の概要

- 浪江駅西側地区共創会議には部会を設置し、**具体的・専門的なテーマ**に関して意見交換を行うとともに、**学園都市の一翼を担う学びの場**となることを期待。
- 当初は、**コミュニティ部会**と**基盤整備部会**の設置を想定。必要に応じ部会を追加。
- 基盤整備部会**においては、浪江駅西側地区の**基盤整備設計**へ民間事業者等の意見を反映し、事業の**実現性を高める**。



2. 浪江駅西側地区共創会議

2) プログラムのイメージ

< 共創会議総会、コミュニティ部会の基本パターン >

- プログラムの基本的な内容は以下のとおりです。
- 忌憚のない意見をいただけるよう、参加者自己紹介（ピッチ）や意見交換は、共創会議会員のみ限定の場での実施を想定しています。

区分	一般公開プログラム	会員限定プログラム
共創会議 (総会)	<p>①情報提供 (30分程度)</p> <p>②講演、事例紹介等 (60～90分)</p>	<p>③参加者自己紹介（ピッチ） (5分×10者/回)</p> <p>④意見交換 (30分～60分)</p>
コミュニティ部会		<p>⑤交流会</p>
基盤整備 部会	<p>①情報提供 (30分程度)</p>	<p>②意見交換 (30分～60分)</p>

2. 浪江駅西側地区共創会議

2) プログラムのイメージ

< 共創会議総会、コミュニティ部会の内容の例 >

一般公開プログラム

① 情報提供（～30分）

浪江駅西側地区整備に際して参考となる情報を提供します。各回における具体的な提供内容は、アンケート等を通じた会議メンバーのニーズを踏まえて決定していきます

情報提供の例

- 浪江町の概要（町外メンバー、新規メンバー向け）
- 駅西・駅周辺整備事業の状況
- 官民連携整備の他地域事例 等

② 講演、事例紹介等（60～90分）

講演、先進事例紹介、現地視察等により地域理解や事業計画策定等の参考となる知見を提供

テーマ例

- 浪江町の歴史文化（新規メンバー向け）
- 浪江町の産業・人材
- 浪江町の復興事業現地視察

2. 浪江駅西側地区共創会議

2) プログラムのイメージ

< 共創会議総会、コミュニティ部会の内容の例 >

会員限定プログラム

③参加者自己紹介（ピッチ）（5分×10者/回）

本会議には、町内・町外からの幅広い参加者が想定されることから、メンバー間の新たな出会いを促進するため、お互いがお互いを深く知るため、簡単な自己紹介（ピッチ）を行います

※ピッチ内容に関心を持たれた先とは、個別に接触、協議いただいて差し支えありません

自己紹介いただく内容の例

- 事業内容・活動内容
- 駅西側地区で取り組みたい内容
- どんな人/企業と知り合いたいかなど

④意見交換（30分～）

「役場からの情報提供」セッションを踏まえ、会員間のみで、役場との間でより深い意見交換の場を設定します。

※町との個別意見交換の希望があれば随時対応します

意見交換内容の例

- 公募要件に対する希望
- 駅西側周辺整備において特に知りたい内容

⑤交流会

メンバー間での親睦を深めていただくため、希望者を対象とした交流会を実施します。

2. 浪江駅西側地区共創会議

2) プログラムのイメージ

< 基盤整備部会の内容の例 >

一般公開プログラム

会員限定プログラム

① 情報提供 (30分程度)

浪江町が行う基盤整備設計等について、各段階における検討状況をお伝えします。

情報提供する内容の例

- 基盤整備設計方針案・設計条件案
- 敷地設計案 (出入口、ライフライン等)
- 周辺インフラ設計案 (道路、調整池、雨水排水路等)
- 空間形成、デザインコード 他

② 意見交換 (30分～60分)

「役場からの情報提供」セッションを踏まえ、オープンサウンディング形式の意見交換の場を設定します。

※町との個別意見交換 (非公開) の希望があれば随時対応します

意見交換内容の例

- 公募対象敷地の規模、位置、形状
- 公募対象敷地の出入口やライフライン
- 周辺インフラの設計に対する要望
- その他

2. 浪江駅西側地区共創会議

3) 会議のスケジュール (R7年度)

区分	4/23-24	5/29	6~9月	10~12月	1~3月	R8年4月
共創会議 (総会)	説明会 現地視察会	浪江駅西側地区共創会議 (第1回) キックオフ会議				浪江駅西側地区共創会議 (第2回)
コミュニティ部会			コミュニティ部会 ①	コミュニティ部会 ②	コミュニティ部会 ③	
基盤整備部会			基盤整備部会 (随時開催、回数未定)			

※入会申込は、説明会開催後から受付予定

2. 浪江駅西側地区共創会議

4) 会議の推進体制

事務局	浪江町市街地整備課F-REI立地室
専門家（浪江町共創推進アドバイザー）	(株)新産業文化創出研究所 代表取締役所長 廣常啓一氏
専門家・関係機関・支援機関	福島国際研究教育機構（エフレイ）
	公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構（イノベ機構）
	公益社団法人福島相双復興推進機構（官民合同チーム）
	株式会社東邦銀行
	福島大学地域未来デザインセンター
	浜通り地域デザインセンター
	独立行政法人都市再生機構（UR都市機構）
	独立行政法人中小企業基盤整備機構（中小機構）
	特定非営利活動法人とうほくPPP・PFI協会

2. 浪江駅西側地区共創会議

4) 会議の推進体制

< 専門家（浪江町共創推進アドバイザー）紹介 >

株式会社新産業文化創出研究所 代表取締役所長 廣常 啓一 氏

36

1960年大阪府堺市生まれ。立命館大学(文学部、産業社会学部)卒業後、日本経済新聞グループの日経広告にてマーケティングやクリエイティブディレクターや1990年国際花と緑の博覧会 屋内展示プロデューサーなどを経て、2005年新産業文化創出研究所(通称ICIC)を設立し、代表取締役の所長を務める。東京都港区在住

社会や地域課題の解決に資する新たな産業・文化の創出とそれをまちづくりに活かすことを目的としたシンクタンク兼、その実現のためのプロデュース機関でそのためのプラットフォーム機能や知の拠点施設(秋葉原UDX)を企画運営、その他、グランフロント大阪などのコンサルティングを行う。特徴として街づくりや都市計画、施設計画とその中身としての産業や文化創出の機能創造を行う。

浪江町共創推進アドバイザーとして、俯瞰的視点からの浪江駅西側地区共創会議運営と個社へのメンタリングを行う。

- ・最近、銭湯巡りしています。
- ・港区の住まい近辺で、地域主体のリビングラボ仕掛けています。



- ・株式会社 新産業文化創出研究所 (ICIC) 代表取締役所長
- ・帝塚山学院大学 特任教授 社会連携機構
- ・大阪公立大学大学院 都市経営研究科 客員講師
- ・東京都立大学The Tokyo U-club理事
- ・公益財団法人りそなアジアオセアニア財団 理事
- ・公益社団氷温協会常任理事
- ・一般財団法人ドリーム夜さ来い祭りグローバル振興財団 理事
- ・一般社団法人全日本司士協会 理事
- ・独立行政法人科学技術振興機構 RISTEX社会技術研究開発センター SOLVE-SDGsアドバイザー
- ・独立行政法人都市再生機構 まちづくり支援専門委員
- ・NPO法人秋葉原観光推進協会理事
- ・NPO法人元気な120歳を創る会理事
- ・NPO法人キャンサーネットジャパン評議委員
- ・みんなのエネルギー会議代表
- ・グローバルヘルスイニシャティブ 代表幹事
- ・公益社団法人2025年日本国際博覧会協会委員 (事業者選定)
- ・一般社団法人2025年日本国際博覧会大阪パビリオン委員 (事業者選定)
- ・浪江町2024年公民連携セミナー①～③講師

2. 浪江駅西側地区共創会議

4) 会議の推進体制

< 専門家・関係機関・支援機関紹介 >

福島国際研究教育機構（エフレイ）



福島国際研究教育機構（略称「F-REI：エフレイ」）は、福島復興再生特別措置法に基づいて2023年4月に国が設立した特殊法人です。福島をはじめ東北の復興を実現するための夢や希望となるものとするとともに、我が国の科学技術力・産業競争力の強化を牽引し、経済成長や国民生活の向上に貢献する、世界に冠たる「創制的復興の中核拠点」を目指しています。

現在は、ふれあいセンターなみえの一部等に仮事務所を構えて運営をしており、F-REI施設の整備を進めているところです。

共創会議では、浪江駅西側地区の整備とF-REIの施設整備を一体的に進めるべく、各種機関との連携を進めてまいりたいと考えております。

（仮称）中央広場のイメージ



日建設計・日本設計・パシフィックコンサルタンツ設計共同体提供

※イメージパースであり、今後の設計で変更となる可能性があります。

<施設整備の概要>

エフレイの当初の施設整備は国が行うこととされており、復興庁が事業主体となって進めております。

浪江駅西側に約16.9ヘクタール、東京ドーム3.5個分の敷地に新たに施設を整備するものであり、現在、設計や敷地造成のためのボーリング調査などを行っているところです。

エフレイ敷地の東側に整備予定の連携・交流ゾーンでは、誰でも自由に出入り可能なオープンスペースとして「（仮称）中央広場」を整備することを計画しており、エフレイで働く研究者や職員とエフレイを訪れる地域の方々の交流が促進されるような空間となることを目指しています。

2. 浪江駅西側地区共創会議

4) 会議の推進体制



福島
イノベーション
コースト
構想推進機構

< 専門家・関係機関・支援機関紹介 >

福島イノベーション・コースト構想推進機構（福島イノベ機構）

- 福島イノベーション・コースト構想の中核的な推進機関として、2017年7月に福島県が設立した法人。
- 以下の5本柱で、県からの受託・補助事業（2024年度は約30億円）を中心にソフト面の取組を展開。

① 産業集積

企業誘致、実用化開発や事業化の支援、企業間マッチング機会の創出など、産業集積を促進する取組を実施。



企業間マッチング



企業立地セミナー

② 教育・人材育成

浜通り地域等での大学等の教育研究活動や、初等中等教育でのイノベーション人材育成を支援。



大学と地域の連携
(東京大学×新地町)



ICTを活用した水田管理実習
(相馬農業高校)

③ 交流人口の拡大

拠点の活用や地域の新たな魅力創造など、交流人口の拡大に向けた取組を実施。



拠点の視察ツアー(楢葉町)



拠点の視察ツアー(川俣町)

④ 拠点施設の管理運営

イノベ構想の各拠点について、運営を受託。拠点の利活用について県内外にPR。



福島ロボットテストフィールド



東日本大震災・原子力災害伝承館

ふくしま12市町村移住支援センターの運営

避難地域12市町村の移住施策の支援と移住・定住の促進に向けた課題解決に取り組む。



情報発信ポータルサイト



総理との車座(センター長出席)

⑤ 情報発信

シンポジウムの開催など、総合的な情報発信を推進。



シンポジウム



YouTube JP



facebook

イノベ機構のSNS

2. 浪江駅西側地区共創会議

4) 会議の推進体制

< 専門家・関係機関・支援機関紹介 >

公益社団法人 福島相双復興推進機構（福島相双復興官民合同チーム）

- 官民合同チームは、原子力災害で被災された事業者の方々の事業・なりわい再建を目的として、2015年に設立されて以来、国・県・民間企業が一体となって活動してきました。
- 2021年～2025年の5年間を第2期復興・創生期間と位置付け、3つ分野で支援に取り組んでいます。



※水産の仲買・加工業については、
いわき市・相馬市・新地町を追加

事業なりわい再生・産業創出支援

- 事業の自立・継続支援
- 地元団体・機関との協業
- 産業集積の形成支援
- 水産仲買・加工業等への支援

営農再開支援

- 農地集積・集約への支援
- 高付加価値の創出
- 小規模営農モデルの展開

広域まちづくり支援

- エリア全体を俯瞰したまちづくりへの総合的支援
- 関係人口拡大に向けた取組
- 実証フィールド化への取組

目指す姿／方向性

- これから復興が本格化する地域を重点的に支援し、帰還や移住が進んだ新しいまちの形成に貢献
- 帰還され事業・農業を営む方々と、外からの新しいヒト・担い手・企業との協業、産業集積・営農再開面積拡大に貢献
- 相双地域全体としての広域的なまちづくりに貢献
- 相双地域への関心を高め、交流人口・関係人口増、移住定住促進に貢献
- 相双地域・浜通りがイノベーションによる社会課題解決へのチャレンジの場となるよう貢献

2. 浪江駅西側地区共創会議

4) 会議の推進体制

< 専門家・関係機関・支援機関紹介 >

株式会社東邦銀行



すべてを地域のために

東邦銀行

相双新産業推進室

2024年4月、浜通り地域支援の専門組織「相双新産業推進室」を設立しました。①つなぐ（県内企業とイノベ機構、F-R-E-I等とのマッチング）、②ひろげる（イノベ構想やF-R-E-Iの認知度向上に向けた連携）、③育てる（県内進出企業等への金融・経営支援等）の3つのコンセプトにより、相双地域の各プロジェクトに積極的に関わっています。

原町支店

南相馬市原町区
南町1丁目72



浪江支店

双葉郡浪江町
大字幾世橋
字芋頭27-1



地域社会の持続可能性を高める10TARGETS

- 地域社会の持続可能性を高める10TARGETSを設定
- 10TARGETSに取組み、地域・お客さまと新たな価値を共創することで、お客さま1社1社の事業価値向上と、お客さま一人ひとりのゆたかな暮らしづくりを実現



① 人材不足への対応

少子高齢化を背景とした人材不足への対応は地域社会の最重要課題。「人材紹介」はお客さまアンケートにおいても金融機関から受付けたいサービスの上位であり、人材ビジネスの充実が必要。また、IT化による省力化にも注力。



② 脱炭素促進支援

地球温暖化への対応として、脱炭素化への取組みは企業の重要課題であり、新たなビジネスチャンス。サブプライチエーンから排除されるリスクも想定されるほか、当行のScope3への対策としても更に取組みを強化。



③ 金融コンサルティング

事業性融資は第1成長ドライバーとして当行の収益の柱。お客さまが銀行に最も期待する役割は資金供給機能。多様な調達手法をよりスピーディに提供するため、金融コンサルティングの高度化に取組む。



④ 創業・成長・経営支援

地域経済の活性化のためには、地域でイノベーションを創出するべく新たな取組みが必要。金融仲介機能を発揮することで企業の成長を支えるとともに、経営改善支援・事業再生支援に取組むことが地域金融機関の使命。



⑤ 事業性評価・有益情報提供

金融庁アンケートにおいて企業が受けたいサービスの第1位は「各種支援制度の紹介や申請の支援（補助金に関する情報提供）」。業界動向に関する情報のニーズも高い。お客さまに必要な情報をタイムリーに提供できる体制構築が必要。



⑥ キャッシュレス

政府は2025年6月までにキャッシュレス比率4割程度を目指す。キャッシュレス決済は消費者の利便性向上だけでなく、現金決済に係るインフラコスト削減、業務効率化や人手不足の対応としても有効であり、法人・個人に対して普及を促進していく。



⑦ ライフイベント・サポート（ローン）

自動車購入資金や教育資金、住宅取得資金など、お客さまのライフステージに応じたニーズに対応し、お客さまのゆたかな暮らしづくりをサポート。また、消費活動を通じ地域経済の活性化にもつながる。



⑧ 資産形成・運用（預かり資産）

政府は「資産所得倍増プラン」において「貯蓄から投資」に向けたさまざまな施策を打ち出し、成長と資産所得の好循環の実現を目指している。お客さまのゆたかな暮らしづくりの実現に向け、個人コンサルティングの高度化に取組む。



⑨ 相続・信託

高齢化社会の進展により、高齢者から将来世代への資産承継ニーズは高まっている。専門性に磨きをかけ、お客さまの想いの実現に向け、価値あるソリューションを提供していく。



⑩ 金融リテラシー向上

「人生百年時代」を生きる上で、金融経済教育の普及は非常に重要。当行は、将来の顧客基盤となる子どもたちへの金融教室や、若年層～高齢層に向けてライフステージに応じた金融経済教育活動を実施していく。

2. 浪江駅西側地区共創会議

4) 会議の推進体制

< 専門家・関係機関・支援機関紹介 >

福島大学地域未来デザインセンター

地域(県・市町村・企業など)の課題・ニーズを共有し、大学教職員・学生・研究シーズ、大学の総合知を活かしてさまざまな地域デザインを提案します。防災復興に関する取り組みも行います。

相双地域支援サテライト

東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故からの、ふるさと再生と人間性の回復を目指し、コミュニティ再生や教育環境整備など、住民に寄り添ったソフト面の支援を、被災12市町村を対象に実施しています。

浪江町役場にもサテライトを設置し、2名のスタッフが地域復興支援活動を行っています。

福島大学マスコット
キャラクター
「めばえちゃん」



地域未来デザイン
センターロゴ



「ソウソウグッドくん」
相双地域支援サテライトの
キャラクター

【浪江サテライトがお手伝いできること】

- ・ 浪江町に拠点を置いて活動している「まちづくりのプレイヤー」として共創会議に参加する町外事業者と町内・浜通り地域のコミュニティを橋渡しします！
- ・ アカデミアとして専門的な知見を提供できる教員等（例：まちづくりテーマの部会におけるセミナー講演講師）をご紹介しますので、ぜひご相談下さい！

2. 浪江駅西側地区共創会議

4) 会議の推進体制

< 専門家・関係機関・支援機関紹介 >

浜通り地域デザインセンターなみえ

東京大学、日産自動車、NEXCO東日本の連携講座の一環として2022年5月に設置。
住民の方々の拠点、研究の拠点、情報の拠点として、多様な方々に利用いただいている。
センター長は羽藤英二東京大学教授（大学院工学系研究科社会基盤学専攻 交通都市国土学研究室）

浪江駅西側地区共創会議では、地域コミュニティ形成の専門家・プレーヤーとして浪江町のコミュニティとの接続や、まちづくり研究を基盤とした助言等による支援を行う。

浜通り地域
デザインセンターなみえ
(通称：はまセン)
ってなあに？



駅に近接、スマホの拠点



町民の憩いの場



なみえ中の総合学習支援



コワーキングやスマホ相談

2. 浪江駅西側地区共創会議

4) 会議の推進体制

< 専門家・関係機関・支援機関紹介 >

独立行政法人 都市再生機構 (UR都市機構)

—— 街に、ルネッサンス ——



UR都市機構は、国の政策実施機関として60年以上にわたり時代とともに歩みながら、日本のまちづくりを支援してきました。

原子力災害により住民も経済活動もゼロになった被災地域の復興には、住宅・施設用地や公共施設整備等のハード面からのまちづくりだけでなく、コミュニティ再生やにぎわいづくり、交流人口・関係人口の創出・拡大に資するソフト面からのまちづくりも不可欠であるとの認識の下、浪江町では「復興拠点整備事業支援」「地域再生支援」を一体に総合的な復興まちづくりを推進しています。

浪江駅西側地区においても、これまで培ってきた事業経験やノウハウと公平性・中立性を活かし、民間事業者の皆さまや地域の皆さまと連携して、基盤整備の検討を支援していきます。

UR都市機構の復興まちづくりの取組み



浪江駅周辺ランドデザイン基本計画

復興拠点整備事業支援

自治体からの要請に基づき、住民の生活再開や地域経済の再建の場となる復興拠点の整備について、計画策定から事業実施まで支援しています。

地域再生支援

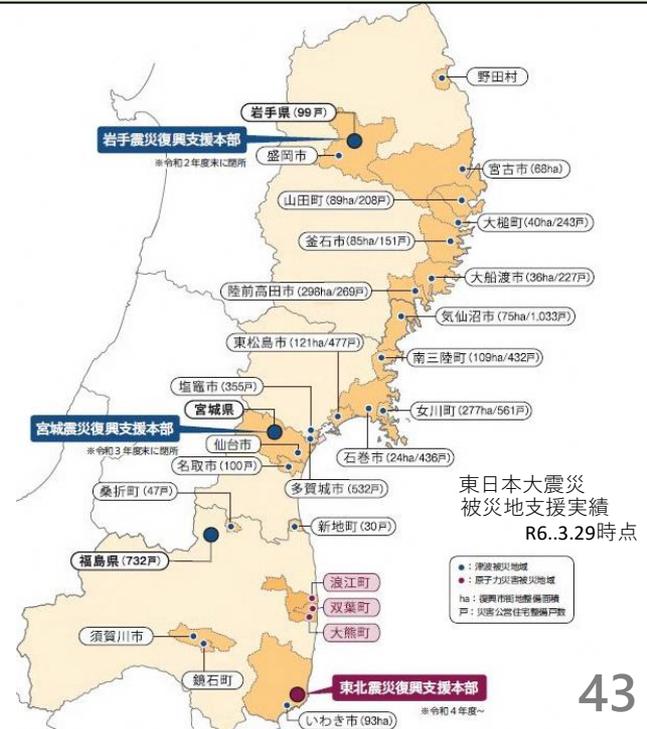
自治体との連携のもと、持続可能な地域社会の再生に向け、コミュニティ再生やにぎわいづくり、交流人口・関係人口の創出・拡大のため、地域活動拠点を設置しさまざまな実証活動を行うなど、ソフト面での取り組みを実施・支援しています。



情報発信・交流スペース「なみ☆いえ」



イベントカレンダー「なみ☆いえ」を設置し地域へ公開



2. 浪江駅西側地区共創会議

4) 会議の推進体制

< 専門家・関係機関・支援機関紹介 >

独立行政法人 中小企業基盤整備機構 東北本部（中小機構）



中小機構は、中小企業の皆様の経営課題に寄り添って支援する公的機関です。

- ◆ 創業期から成長期、成熟期に至るまで、**企業の成長ステージに合わせた支援**が可能
- ◆ 豊富な支援メニューを活用した**複合的な支援**を実施
- ◆ 支援ノウハウを活かした、支援勉強会の開催など、地域**支援機関の支援機能の向上を支援**
- ◆ 全国**約3,000名の専門家**を活用し、個社支援と面的支援の双方を提供

浪江駅西側地区共創会議の皆様にご提案可能なメニュー（一例）

IT経営サポートセンター

実務経験豊富なITの専門家※が
オンライン面談でお悩みを解決します

※ITコーディネータや中小企業診断士など

お気軽にご相談ください！

✓ 何回でも無料	✓ 1回60分
✓ オンライン	✓ 予約制

ITツールを導入したいけどどう取り組めばいいかわからない……貴社の実情をもとに、課題整理からIT導入・定着までお手伝いします。

創業機運醸成イベント（TIP*S）の開催

創業機運醸成イベント（TIP*S）
開催支援の概要

潜在的な起業関心層～起業関心層が対話による学び合いを通じ
新たなアクションを起こす

『創業機運の醸成を目指す学びの場』

行動実習を起こすきっかけの提供を目的としたワークショップやイベントを開催

「創業機運の醸成を目指す学びの場」として、浪江町で創業やアントレプレナーシップに関するワークショップやイベントを企画・運営します。

その他メニュー

- ◆ **企業支援**
 - ・創業・スタートアップ相談
 - ・国内経営相談、ハンズオン
 - ・新事業・事業再構築相談
 - ・海外展開相談
 - ・事業継続力強化支援（連携型）
- ◆ **支援機関支援**
 - ・支援機関担当者向け講習
 - ・共催セミナーの実施

2. 浪江駅西側地区共創会議

4) 会議の推進体制

< 専門家・関係機関・支援機関紹介 >

特定非営利活動法人 とうほくPPP・PFI協会 【会長】風見正三 宮城大学参与特任教授（前副学長）

- 2000.11 **みやぎ文化・PFI協会**: 設立、宮城県よりNPO認証
- 2007.11- **東北PPP推進連絡協議会**: 設立、事務局担当
- 2010.08 **とうほくPPP・PFI協会**: 名称変更・認証（現在正会員約100社、行政約40団体が参画）

PPP(Public Private Partnership) とは？

官民連携で公共サービスの提供を行う手法

PFIはPPPの代表的な手法の一つで、ほかにも指定管理者制度、公設民営(DBO)方式、包括的民間委託なども含まれる

【東北での事例】・岩手県紫波町「オガールプロジェクト」
・宮城県富谷市「とみやど」 など

PFI(Private Finance Initiative)とは？

公共施設等の建設・維持管理・運営などに民間の資金とノウハウを活用して、効率的・効果的な公共サービスの提供を図る手法

【東北での事例】・山形県山形市南部児童遊戯施設「コパル」
・福島県いわき市文化交流施設「アリオス」 など

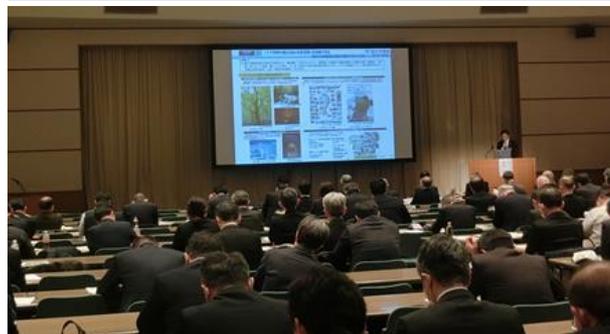
—産官学民の連携による地域未来共創—

「参画と協働」= 地方都市再生の切り札

地域住民の視点と
公共性の原則

市民活力・民間活力
を活かした
公共サービス

住民・NPO・企業・
行政の新たな
ネットワークづくり



2025.2.25
第14回新春特別講演会

事例集
「東北PPP/PFIの20年」



協会の 主な活動	新春特別講演会	毎年2月に仙台で開催 東北地方整備局長、東北農政局長、東北経済産業局長の講演
	フォーラム	「地域活性PFIフォーラム」、「PPP/PFIフォーラム」を東北各地で開催（2024年は浪江町で10.3開催）
	先進地視察	PPP/PFI導入事例の視察—岩手県(盛岡市・紫波町)・山形県(東根市・山形市)などで実施
	事例集	東北PPP/PFIの20年 2020年から毎年1巻ずつ発行、全5巻セットで販売中(5千円)
	受託事業	PFI活用調査、PPP/PFI相談窓口、官民連携まちづくり事業化調査・支援業務、ワークショップ開催等

2. 浪江駅西側地区共創会議

5) その他

slack



←Slackワークスペース
の登録リンク

- ・会議の場によらない双方向の連絡ツールとして活用するコミュニケーションアプリ
- ・共創会議に特化した町からの情報・議事録等の資料共有のほか、会員からの発信、会員間の接触・協議（クローズ設定可）での活用を想定。

※初回利用にはアドレス登録（スマートフォンの場合はアプリインストール）が必要です。

有料と無料がありますが、無料アカウントで必要な機能としては問題ありません。

アンケート

- ・共創会議メンバーのニーズを収集しプログラムに反映するため、WEBアンケートを実施中。二次元コードからぜひ回答をお願いします。

●設問：共創会議でどのような情報、機会を得たいか

- ・今後も整備計画の進捗に応じて、随時アンケートを行います。



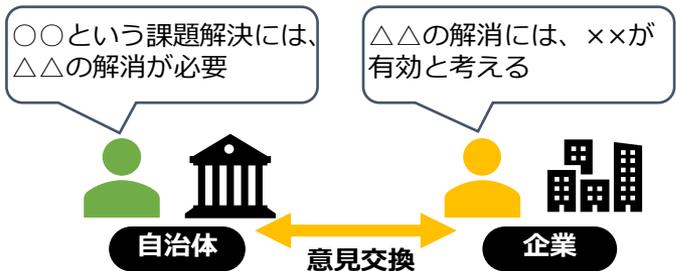
アンケートフォーム

2. 浪江駅西側地区共創会議

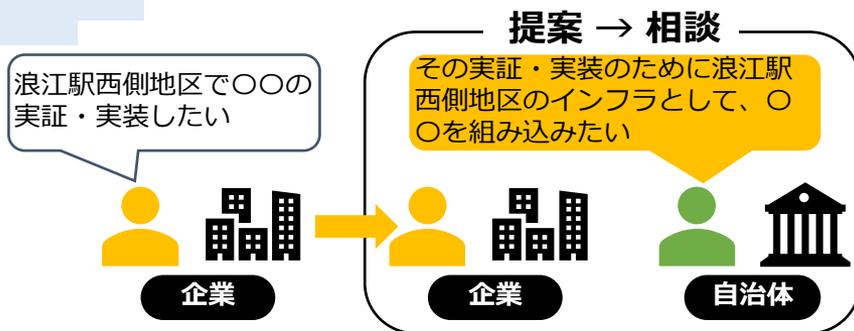
5) その他

参画のメリット

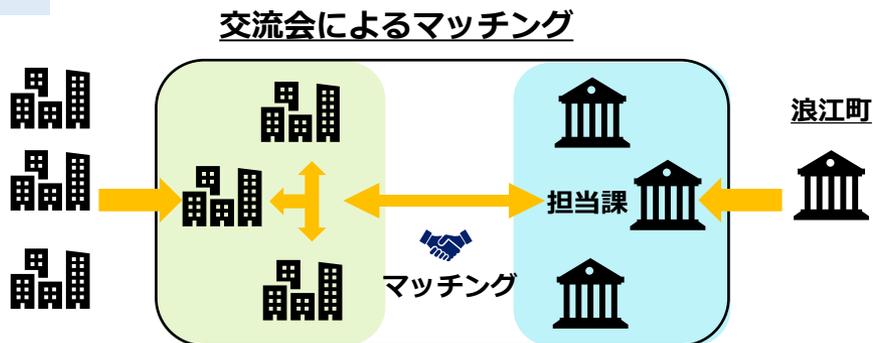
1 浪江町担当者から現場感のある生の声を得られる



2 開発の上流部分から浪江駅西側地区のインフラ整備や計画設計等に意見を提起できる



3 交流会により同じ方向性の熱意のある企業、熱意ある地域コミュニティとマッチングが望める



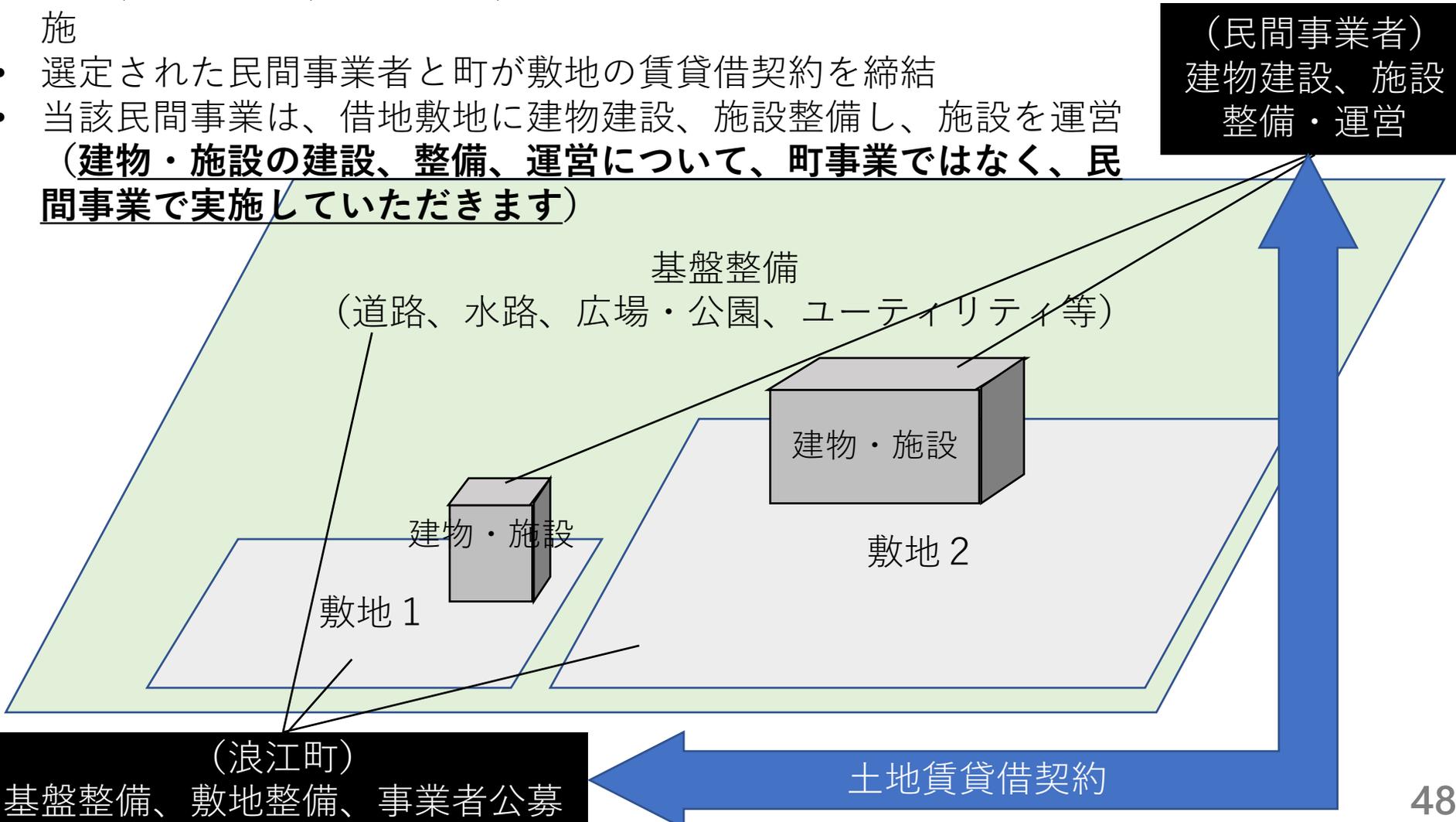
4 幅広いプレイヤーの方々との連携業務に取り組むことで、今後の事業展開の幅が広がる



2. 浪江駅西側地区共創会議

(参考) 浪江駅西側地区における想定事業スキーム

- 町は、基盤整備、敷地整備、敷地を活用する民間事業者公募を実施
- 選定された民間事業者と町が敷地の賃貸借契約を締結
- 当該民間事業は、借地敷地に建物建設、施設整備し、施設を運営
(建物・施設の建設、整備、運営について、町事業ではなく、民間事業で実施していただきます)



2. 浪江駅西側地区共創会議

(参考) 浪江駅西側地区事業者公募の主な論点

- 募集単位・敷地設定・募集順序
- 募集用途・募集施設
- 賃貸条件（事業用定期借地か普通借地か、借地期間、賃料）
- 浪江駅西側地区のまちづくりの共通のルール等を公募条件として規定すること
 - ✓ まちづくりガイドラインやデザインガイドライン
 - ✓ エリアマネジメント